オークランド大学ジョイントセミナー体験記

2024 年 2 月 16 日、ニュージーランド（以下 NZL）のオークランド大学とのジョイントセミナーに発表者として参加した。オンライン発表という手軽さや、前月には東大 ROLES が主催する国際ユースキャンプに参加していたことから、英語での発表・質疑など朝飯前、と高を括っていたが、ふたを開けてみれば夕飯後のフルマラソン並みにハードであった。

発表の内容は、“How did religions react to the COVID-19 pandemic? A Comparison of Japanese New Religions”と題して、修士論文として提出した、COVID-19 影響下における新宗教の対応と信徒の反応に関する論文から、150 年以上の歴史を持つ教団と、「新新宗教」に分類される教団に関する記述を抜き出したものであった。訳出においては、それぞれの教団の教義をいかに英訳するかに苦心し、教団の海外支部の公式サイトと首っ引きで訳した。また、普段日本語に訳された状態で学んでいる宗教学の用語の数々を、英語ではどのように表現すればいいのかにも悩み、自らの不勉強を強く感じた。

30 分という長い発表時間を埋められるだけのパワーポイントの作成と、ネイティブのオーディエンスが聞きやすいよう落ち着いた発音での発表を実現すべく、西村先生の丁寧なご指導を受け、日夜のリハーサルを続け、直前まで原稿の手入れを行った。

そして、当日、30 分の発表を終えて質疑が始まった。日本語で発表する木曜ゼミでさえ、不正をやらかした国会議員のようにしどろもどろの応対になることがあったため、英語で飛び交う質問に適切にこたえられるか不安であったが、開口一番にオークランド大学の先生から、「Science と銘打っているわりにコロナへの言動が非科学的な教団もある」というジョークを頂き、場が打ち解けたことで、緊張することなく応対できた。対象とした各教団が、いずれも NZL ではなじみが薄いことから、その信仰文化について盛んに質問が飛び交い、とくに教祖の死にともなう混乱については、そのタイムリーさから多くの質問が寄せられ、手元の資料で調べながら必死に回答することになった。

休憩をはさんで、オークランド大学の Florence Crick-Friesen さんによる、日本人女性の YouTube インフルエンサーとその周囲のコミュニティにおける、雇用・失業に関する語りを分析した研究発表を聴いた。自身も YouTube 上で発信しながら、インフルエンサーへのオンラインインタビューや、X のハッシュタグを通じた横断的な資料調査を行っている Florence さんの発表は、日本国内にいながら、日本社会における女性の現状について十分に理解できていなかったことを再確認し、より深い学びのきっかけとなった。

質疑においては、インターネット上で発信者となることで生じる、荒らし（トローリング）行為やバッシングの問題に関しての質問が上がり、日本社会における生きづらさの問題を理解する上で、極めて重要な研究であると感じた。

博士に進学したばかりで、英語での発表経験がない方は、機会があればこのセミナーにぜひ参加してほしい。NZL の皆さんはとてもやさしく、丁寧な質問をもらえる。国際的な場での発表という実績を手に入れることで、自分の語学力への自信と研究への第三者からの評価を得られれば、今後の活動に必ずプラスになるはずだ。　（坪井　俊樹）